

「教育日本一」を目指して進める “学びの環境モデルふじえだ”づくり ～「笑顔あふれる教育」のために～

地域の
特色ある
活動

静岡県藤枝市教育委員会

1 はじめに

藤枝市は静岡県のほぼ中央に位置し、中心市街地の再開発や教育を含む子育て環境の充実などにより「選ばれるまち」として転入超過が続いている人口14万5千人の元気なまちである。

市内には市立小中学校27校、私立中学校2校のほか、公立高校3校、私立高校3校に加え私立大学が1校あり、充実した教育環境を誇っている。

2 「笑顔あふれる教育」

本市の学校教育には、「授業で人を育てる」という脈々と受け継がれてきた大切な理念がある。どんなに世の中が変化しても学校教育が目指す目標は「人格の形成」であることから、すべての教員が「教科の学び」と「人としての学び」の双方を柱とする授業観のもとで、日々の授業を実践している。

一方、子供が自発的に学び続けるためには、授業において「新しいことを知る喜び」「授業がわかる喜び」「友だちとともに学ぶ喜び」など「学びの楽しさ」を体感することが重要である。

本市では、学校教育のすべての場面で、子供が「学びの楽しさ」を実感できることを「笑顔あふれる教育」として、教育の基本理念としている。

3 「教育日本一」と「学びの環境モデルふじえだ」

本市では「教育」を市の重点施策のひとつに位置付け、「教育日本一」という大きな目

標を掲げて教育環境の充実に取り組んでいる。

「日本一」といっても単純な学力を意味するのではなく、可視化や数値化ができない「子供の健全な育ち」を支え、他市町村のモデルとなりうるような理想的な教育環境づくりを進めることが本市の掲げる「教育日本一」の目指すところである。

以下に「学びの環境モデルふじえだ」を実現すべく取り組んでいる本市の教育施策の一端を紹介する。

(1) ふじえだ型小中一貫教育

小中一貫教育については、学校の統廃合を前提とせず、子供の心身の健全な成長と学力の向上に焦点を当てた施設分離型を基本として取り組んでいる。

平成29年度は、1中学校区において小学校高学年での一部教科担任制、中学校教員による小学校への乗り入れ授業のほか、小学校5・6年生が週1回、中学校に登校して1日の授業を受けるなどの工夫を凝らした小中一貫教育がスタートした。また、小中一貫教育の全中学校区への拡大に向けて、特別支援教育を含むすべての教科について、新学習指導要領に沿った小中一貫教育カリキュラムを作成した。このカリキュラムでは、小中の9年間を基礎期・充実期・発展期の3期に分け、継続的で一貫性のある指導を可能としている。

(2) ICT教育

プログラミング教育の必須化やデジタル教科書の導入など、教育環境のICT化を見据えて、平成29年度、小中7校のモデル校に電子黒板やタブレット型端末を先行導入し検証を行った。その結果を受けて、本年度、全小中学校の全学年を対象にしてICT教育環

境の整備を実施することとした。

また、ソフトバンクグループ株式会社の Pepper 社会貢献プログラムに参加し、全小中学校に計 161 台の人型ロボット Pepper を配置した。各校では総合的な学習の時間や技術科の授業で、プログラミングの取組を通じ、子供の論理的思考力や問題解決能力の育成に努めている。



タブレット型端末を使用し、楽しくわかりやすく



Pepper を活用したプログラミング教育

(3) 特別支援教育

市内 27 の市立小中学校のうち 19 の小中学校に特別支援学級を設置しており、今後も必要に応じて増設を進めていく方針である。さらに本年度からは、教育委員会に「特別支援教育士」の資格を有するアドバイザーを常駐させ、保護者対応に加えて特別支援教育にあたる教員の支援、育成を進めることとしている。

(4) 英語教育

中学校卒業時に、英語で簡単な日常会話ができる国際感覚にあふれた生徒を育成することを目標に、17 人の ALT を全小中学校に配置している。配置に際しては、異文化に触れることを楽しみながらコミュニケーションを中心に学ぶ小学校から、学力の習得を目指す中学校への移行を円滑にするために、小学校 6 年生と中学校 1 年生を同じ ALT が継続して指導するなどの工夫をしている。



小学校低学年の外国語活動 (ALT と楽しくコミュニケーション)

(5) 宇宙教育

平成 29 年度に「宇宙」を素材とした教育活動を通じて、科学的なものの見方、考え方を身に付けることができるよう、県内自治体として初めて国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA) と宇宙航空教育活動に関する連携協定を締結した。協定の締結により、種子島宇宙センターでの H2 ロケット打ち上げの取材活動や国際宇宙ステーションとの交信体験など、普段は参加が困難なことも

体験でき、子供の知的好奇心に応えることができている。

今後は、小中学校での「宇宙」に関する授業はもとより、宇宙科学の分野で子供の指導にあたる教員や社会教育指導者の育成でも連携を進めていく予定である。



JAXAによる宇宙航空教育活動

(6) ふじえだ教師塾

平成 25 年度から退職校長や現役教員の協力のもと、教員を目指す大学生、大学院生、非常勤講師などを対象にした教員養成コースと、教職 2・3 年目程度の若手教員を対象にした教員育成コースを用意した「ふじえだ教師塾」を実施している。養成コースでは塾生の教員試験合格率は県平均を大きく上回る結果を示しており、育成コースでも若手教員の授業力の大幅な向上が見られるなど大きな成果を上げている。

4 おわりに

本市が先駆的に取り組んでいる施策の一部を紹介したが、これ以外にも多くの特色ある施策を積極的に推進しているところである。これも、3 期目になる本市の北村正平市長が、子供を本市の財産として捉え、未来を担う子供に対する積極的な支援を継続しているからにほかならない。

平成 29 年度には、総合教育会議を市役所ではなく学校を訪問して実施することで、市長と教育委員会が子供の育ちを通じて施策の有効性を実感することができた。

教育を取り巻く環境は大きく変化し転換期を迎えているが、引き続き、教育委員会、市長、さらには学校の現場が、子供を中心に同じ思いを共有できるよう努めていくことで、この難局を乗り越えていきたいと考えている。



教育長
中村 禎